志高錬成

～志を高く持ち、
よりよい成果を得るために、
粘り強く自分を鍛える～

令和８年１０月９日　１８号
佐久市立浅科中学校　文責：中島

「『チャンスはピンチの顔をしてやって来る』･･･なるほどって思いました 」

気が付けば、１０月の３分の１が終わろうとしています。清流祭が終わり、各学年で次の活動に向けての準備、例えば、３年生は進路実現や生徒会引き継ぎに向けて、２年生は生徒会選挙や職場体験学習といった活動の準備が進んでいると思います。準備に「し過ぎること」はありません。（前にも言ったかも･･･）。各自計画的に準備を進めて行って欲しいと思います。

さて、今回の「志高練成」ですが、そんないろいろな活動の「準備」をしているみなさんに考えて欲しいことについて載せてみたいと思います。突然ですが、みなさんの生活の中には「結果」の出ることがたくさんありますよね？。例えば先週行われた２学期テストだったり新人戦だったり…。よく考えてみると「結果」って、頑張る「エネルギー」になることが多いと思いますが、一方で、その「結果」が自分の求めていたものとは違うと、気持ちがなかなか前向きにならないこともありますよね？。でも、その「結果」を無視する訳にもいかない･･･。だから「結果」は大事。でも、「結果」だけに注目してはいけないのです。私はそう思います･･･。

【 いろいろ言っても、大事なのは「考え方」なのだと思うのです･･･ 】

テーマ「納得して行動するために」

いいこともあれば、悪いこともある。そう分かってはいても、ミスやトラブル、誤解や中傷など、不本意な状況の中にいると、「ずっと、このままだ」「いいことなど起こらない」と投げやりな気持ちになるものです。 不思議なもので、そうした思いが募ると、本当に悪い状況が続いてしまいます。これは心と行動がつながっているためです。思いが行動を促したり、歯止めをかけたりする証しです。 後ろ向きの言葉によって、行動までも後ろ向きになる。私も何度も経験してきました。愚痴る、不満を吐き出す、泣きごとを言う。声に出して、自分の窮状を訴えることもしましたが、一瞬気持ちは晴れても、状況は悪くなる一方でした。なぜでしょうか？

こうした時、ついロにしてしまう、「もうダメ」「終わり」「どうせうまくいくはずがない」などは、ピンチを呼び込む根源になります。 人に話して気が晴れるのは、言葉を吐き出す行為に爽快感を覚えるだけであって、心の中は何も変わりません。 現状を改め一歩踏み出すためには、「あなたらしいポジテイブな言葉」を持つことをお勧めします。それらをピンチの時には自分に言い聞かせ、支えにしましょう。

「チャンスはピンチの顔をしてやってくる」

励ましの意味で口にする「大丈夫」ですが、このままですと、何を訴えたいのかが見えてきません。 あなたの窮状を知った方から、「大丈夫！」と言われても、ピンときませんね。「私のことを分かって言っているの？」「ごまかしは言わないでくれ！」せっかくの励ましの言葉も、いま一つ響いてこない場合もあります。

それでは、「あなたならば大丈夫」「あなただから大丈夫」と、言われたらどうでしょうか？「私のことを理解してくれているのだ」「気遣ってくれている」先の例よりは心に響き、受け止めることができるでしょう。 さらに同じ言葉を自分に語りかけると･･･

「あなたならば大丈夫！」→　ずっと努力してきたのだから
「あなただから大丈夫！」→　努力してきたのだから、必ず成果は出る

冷静に自己分析をして、大丈夫である「根拠」を見つけた時には、「絶対に大丈夫」という確信にまで、高まっていきます。「大丈夫」だけでは行動出来なかったのに、対象や根拠が明確になり納得できれば、確信し行動できる自分に変わっています。これが、言葉の力です。ここで私に力を与えてくれる、お守りのようにしている言葉をご紹介しましょう。

「チャンスはピンチの顔をしてやってくる」です。

チャンスとピンチは常に二人三脚。ピンチだと思える事態には、チャンスの芽が必ず隠れているのです。 かつて、売り出したばかりの商品に、クレームが相次いだことがありました。お客様からの抗議やクレームの嵐の前に、社員は電話に出ることを避けます。お得意様には怒鳴られ私自身、謝ることが仕事になってしまって、落ち込みました。 やるべきことは、クレームの処理だけではなく、これを教訓にして間違いない商品を提供することなのに、情けない状況でした。
その時尊敬する方から、「ピンチを生かせる人が本物の経営者だ」と、声をかけていただきました。「そうでなくては、いけないんだよね」。この言葉で事態を冷静に見つめ、クレーム（ピンチ）の中にあった「儲けのタネ」（チャンス）に、気づくことができました。のちに、ヒット商品が生まれるきっかけとなったのです。 そして「ピンチを生かせる人が本物の経営者だ」は、「チャンスはピンチの顔をしてやってくる」という、私らしい言葉に生まれ変わり、以降、ピンチに出会うたびに、私を救う「お守り」の言葉になりました。

「ピンチはチャンス」という言葉。みなさんも聞いたことがあるのではないでしょうか？。でも、この言葉はだれが言った言葉なのか、私自身もよく知りませんでした。なのでちょっと調べてみると、この言葉を使っていたのは大橋武夫さんという方で、明治３９年に愛知県に生まれ、東洋精密工業という会社の代表取締役をしていた人で、この方の著書は今でも多くの方に読まれているそうです。まあ、もちろん私は読んだことありませんがね･･･（笑）。
今の状況を「前向き」にとらえ、より良い結果をだすために「努力」をする。そのために「今の苦しい状況」があるのだ･･･。「ピンチはチャンス」という言葉には、こんな意味が込められているのだと私は考えています。「今のような苦しい状況はそんなに続かない。だから今の苦しさから逃げず、努力しよう･･･」まあ、分かります。分かりますがそれが実行できている人ってそんなに悩まないんじゃないのでは…？って私は思うのです。もともと小心者（？）の私は、結果を出さなきゃいけない場面では緊張もするし、いろいろ考えます。また、求めていた結果が出なかった時は「あ～すれば良かった」とか「こ～すれば良かった」って思うこともありました。つまり、私にとって「結果」は「後ろ向きな気持ちになる原因」だったのです。しかし、上の文章を読みながら、終わってしまったことを色々考えていてもダメなんだなぁ～って改めて思いました。自分が望んだ結果にならなかった「現実」を受け入れることはとても大事なことです。しかし、それをいつまでも引きずらず、さらに良い結果を出すため、これから何をしなければいけないのかを考えることの方が大事なのだと思います。また、考え方を変えれば、結果についていろいろ考えるってことは、今の自分を大切にしている、または今の自分としっかり向き合おうとしているってことにもなると思うのです。当たり前ですが、出てしまった「結果」は変えられません。であれば、これからの「結果」に向かって努力する方が良いに決まっています。大事なのは「切り替え」なのだと思います･･･。もちろん、何も考えないというのはダメなのですよ…。

